

2022年5月19日

報道関係者各位

Chordia Therapeutics 株式会社

**シリーズCラウンドで約40億円の資金調達を実施し
累計調達額約82億円を達成**

がん領域に特化した研究開発型バイオベンチャー企業である Chordia Therapeutics 株式会社（以下「当社」、代表取締役：三宅洋、所在地：神奈川県藤沢市）は、このたびシリーズCラウンドにおいて、日本グロースキャピタル投資法人と東京大学協創プラットフォーム開発株式会社をリード投資家として、MEDIPAL Innovation 投資事業有限責任組合、新生キャピタルパートナーズ株式会社、および日本ベンチャーキャピタル株式会社等を引受先とした第三者割当増資により、総額約40億円を調達したことをお知らせいたします。

当社は本資金を活用して、第1相臨床試験を実施中の選択的汎CDC様キナーゼ（以下、「CLK」）阻害薬CTX-712の国内および海外での臨床試験の推進およびその他の抗がん薬候補の前臨床試験を行ってまいります。

当社代表取締役である三宅洋は、次のように述べています。「今回の増資により、当社パイプラインの臨床試験および前臨床試験を加速化できることを大変うれしく思います。CTX-712はがんの新たな特徴として見出されたRNA制御異常から生じる脆弱性を標的としており、これまでの抗がん薬とは全く異なる新しい作用機序を有するため有効な治療薬になることが期待されています。一日も早く、がんと闘う患者さんに画期的な治療薬を届けられるよう日々邁進して行きたいと考えております。」

日本グロースキャピタル投資法人の資産運用会社である野村スパークス・インベストメント株式会社にてCIOを務め、この度取締役に就任する秋田一太郎氏は、以下のよう述べています。「多くのがんには根治療法が存在していないことから、抗がん薬に対するアンメットメディカルニーズは高いと考えられています。当社は、Chordiaが長期的な視点から合理的に資本を配分し、抗がん薬領域のアンメットメディカルニーズを捉えた成長を期待しております。」

東京大学協創プラットフォーム開発株式会社にてパートナー兼ライフサイエンスCIOを務め、この度取締役に就任する大堀誠氏は以下のよう述べています。「がんの新たな特徴であるRNA制御異常は、私たちが創薬に取り組む上でエキサイティングな領



域です。悪性腫瘍の治療に対する CTX-712 の有望性を実現し、RNA 制御異常と創薬分野の専門性を活用したさらなるパイプラインの開発に取り組む同社を支援できることを誇りに思います。」

以 上

Chordia Therapeutics 株式会社について

当社は、2017 年 11 月にがん領域に特化した研究開発型バイオベンチャーとして神奈川県藤沢市の湘南ヘルスイノベーションパークに設立され、First-in-Class の抗がん薬の研究と開発を行い、革新的な新薬を生み出すことを目指しています。

当社は、リードプログラムである CTX-712 に加え、特定の異常を有するがんの効果期待される CDK12 阻害薬 CTX-439、GCN2 阻害薬など複数のパイプラインの研究開発を行っています。

設立	2017 年 11 月
所在地	神奈川県藤沢市村岡東二丁目 26 番地の 1
代表者	代表取締役 三宅 洋
URL	https://www.chordiatherapeutics.com

【お問い合わせ先】

Chordia Therapeutics 株式会社
IR 担当 久米 健太郎
info@chordiatherapeutics.com